

## 「第1回和歌山県立自然博物館検討委員会」議事概要

- 1 日時 令和6年11月26日（火） 13:30～16:30
- 2 場所 和歌山県立自然博物館レクチャールーム
- 3 趣旨 専門的な知見を踏まえ、県立自然博物館の今後のあり方を検討する。

4 委員

氏名	所属・役職等
コイケ ノブアキ 小池 信昭	和歌山工業高等専門学校 教授
○ サルワタリ トシロウ 猿渡 敏郎	東京大学 大気海洋研究所 助教
タカス ヒデキ 高須 英樹	和歌山大学 名誉教授
ナカエ タマキ 中江 環	太地町立くじらの博物館 副館長
◎ マナベ マコト 真鍋 真	国立科学博物館 副館長
ヨシマツ トシタカ 吉松 敏隆	元高等学校長

(五十音順、◎委員長、○副委員長)

- 5 協議内容 議題：和歌山県立自然博物館の今後のあり方について  
(1) 施設 (2) 展示 (3) 防災 (4) 収蔵庫 (5) 管理運営、その他  
※検討委員会での主な意見については、資料1のとおり

## 検討委員会の主な意見

議題内容	委員から出された意見
(1) 施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この施設によくこれだけのものを詰め込み、うまく展示し、水族館と博物館2つの異なる施設をひとつにしている。現状、水族館部分をどうするかが問題だが、個人としては両施設を残していただきたい。県民の理解も得られると思う。</li> <li>・10万人という来館者数を安定的に維持しているが、今後どういう施設をつくるかを考えた上で、来館者がどちらを求めて来ているのかを調査し、見直すことも重要ではないか。</li> <li>・自然科学系の博物館というのは、全国的に来館者数では苦労していると聞いているが、水族館はそうでもない。水族館をなくしたら、この博物館や海南市にとっても損失があるのではと危惧している。</li> <li>・博物館法改正により「観光」という言葉が法律に入ってきたが、水族館には娯楽を求めて来る人が多い中、ただ泳いでいる姿を見てヒレの動きを見れば、それだけで機能形態学の勉強にもなるので水族館と博物館のいいとこ取りをしている素晴らしい施設だと思う。</li> <li>・水族館は敷居が低いので、サイエンスや学びたいという気持ちの育て方の入口として非常に効率的、魅力的に働いている。</li> <li>・今日も改めて実感したが、老朽化が酷い。これは早急に対応しなければならない。</li> <li>・水族館と博物館を併設していることが、教育面に大きく寄与するとともに、様々な年齢層や興味関心がある人を集わせる力がある。</li> </ul>
(2) 展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本物を見せる展示を充実させ、現状の施設で出来ないところをデジタル化し、展示に取り入れていくと素晴らしいと思う。</li> <li>・今の展示は、海と和歌山の陸上の自然という形できれいに分断が起きている。第2展示室の鉱物関係で地球の歴史を作って海で生命が生まれたという流れが自然であると思う。人の動線も含めたコンセプトを押さえて決めないと展示は何も決まらない。</li> <li>・何か一つ目玉になるようなことと、和歌山の自然にプラスアルファして、和歌山のこどもたちの興味関心が世界につながり、世界各地の人が和歌山に来てくれるようなキーワードが欲しい。</li> <li>・標本を含めた収蔵物は、99%が県内で収集されたもので、和歌山に来ないと見られない、体験できないことは最大の魅力である。</li> <li>・デジタルでは代用できない経験を提供している形としては、非常に工夫して頑張っている。恐竜の再現動画などデジタル資料は、きちんと更新しないとすぐ飽きられたり、更新コストもかかる。本物を見て触れる環境があれば、デジタル化は必要ないのではないか。</li> <li>・海水展示を今の規模で続けるのは、現実的ではないと思う。淡水の場合には、水の問題は海水の処理に比べたら、はるかにコスト的にも楽。</li> <li>・生きたものをこどもたちに見てもらうことは、非常に大事。</li> <li>・学芸員の研究支援や収集資料を生かす意味でも第2展示室の活用・充実を目指していくべき。</li> <li>・何年前かに、第2展示室に地質関係化石関係の展示室が出来た。水族の方は海・川・淡水も含め、ストーリーがあるが、陸はスペースの関係でできていない。そんな意味では、水族で改修という案があるなら、土地の問題は残るが、増築して第2展示室を少し広げることを提案したい。せめて、第2展示室と収蔵庫の増設、新設をするというのがベターな考え方ではないか。</li> <li>・コンセプトで、自然のストーリーを作るという意味では、ワカヤマソウリュウは海の生物なので、一致する部分はあると思う。</li> </ul>

## 検討委員会の主な意見

議題内容	委員から出された意見
(3) 防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿地方整備局が整備中の防潮堤等が完成すれば、現在の場所であっても、南海トラフ3連動地震での浸水被害はほとんどない。ただし、南海トラフ巨大地震であれば、1階もしくは2階部分の浸水と建物への被害が想定される。</li> <li>・地中に最長45mのコンクリート杭を49本打っているため、地震による倒壊の危険はそれほどないと想定される。</li> <li>・第2展示室と収蔵庫の増設、新設の際には、津波のことを考えて工夫すべきだと思う。</li> <li>・現地改修であれば、展示物や収蔵庫を上階（3階以上）に配置し、保管するのがベストではないかと考える。</li> <li>・隣の温山荘だが、そこには岩盤が出ている。山際も岩盤が出ている。だから、地震の揺れに対しては、県内でいくつか避難タワーができていて、あの作りで地震と津波に対応出来るなら、経費的には膨らむことがないのでは。そういう地形・地質的な面を併せれば、建物自体をどうするかという改修の方法は難しいが、近隣に空き地ができており、そちらを向いて増改築・来館者の避難も含めてできるような建物（収蔵庫含む）が出来れば、かなりクリアできるのではないかと考える。</li> <li>・ここは海が近い割には、津波の想定の高さも紀南地域に比べると、そんなに高くない。海に近いことを最大限の財産として考えると、立地条件としては防災的に大きくマイナスな場所ではないと考えられる。</li> <li>・避難タワーを兼ねた建物にリニューアルすることで、収蔵庫のキャパシティを増やすことが出来る。また、近隣住民の避難場所になるので、地域に開かれた博物館になるのではないかと考える。</li> </ul>
(4) 収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらにある標本類を維持管理して、きちんと継承していくことは、博物館の当然の使命である。</li> <li>・課題としては収蔵庫の問題が非常に大きいと思っている。和歌山県民だけでなく、人類にとっても宝になるので、資料は、きちんと残して管理していくのが大事だが、収蔵庫のスペース的にも保存環境にしても、最悪の状態である。収蔵庫施設は最重要課題として考えていくべき。</li> <li>・標本資料の燻蒸設備も十分ではないと聞いている。新設する場合、被災した際（塩害等）の資料を洗浄できる設備を備えるなど、他の博物館を救済出来るハブ館としての機能を整え、県内の協力体制の窓口になっていけば有難い。</li> <li>・ガス燻蒸が近い将来（2種類のうち1種類はR6年度で廃止）出来なくなるので、収蔵庫を作るスペースも問題だが、プラスアルファのようにして収蔵庫の環境を維持していくかという新しいチャレンジにも直面している。収蔵庫だけでも大きく改善する議論も必要。環境や生物にマイナスにならない収蔵環境を目指すことに、県として積極的に取り組むということは、説明しやすい。</li> <li>・標本などが、相談もなく処分されていることがたくさんあると思う。少なくとも県内だけでも積極的に検証していくと言えるような収蔵庫の確保はしていきたいところ。</li> </ul>
(5) 管理運営、その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然博物館の学芸員が実施している親子プログラム等に参加している熱心なこどもは、親と一緒に魚類学会にも来ている。そういう博物館は、魚類限定であるが、この博物館と琵琶湖博ぐらい。結構珍しい。それだけ地元の子も、そして次世代の教育にも貢献している博物館だと思う。</li> <li>・資料の取り扱いについて、県の条例整備は必要。</li> <li>・駐車場を見ると、かなり他府県ナンバーも入ってきているので、第2展示室が充実すればさらに入館者は増えると思う。</li> <li>・もう少し水族の部分の学芸員が必要だと思う。水族の展示は入れ替えをずっとしていけない面がある。これは、人の問題が大きい。</li> <li>・開館して42年が経ち、かつて、こどもだった方たちが親になり、また祖父母になり3世代を繋げてこられるような、地域の方の拠り所になっているところが非常に大きな自然博物館の魅力ではないかと感じた。</li> <li>・変わっていないことが、逆にプラスということもある。</li> <li>・DNAサンプルを収蔵庫に保管するということは現実的ではないが、今までなかったため、新しい使命として考えてもいいのではないかと考える。</li> <li>・入館者数から見ると、自然博物館はそんなに下がっておらず、県民の支持を頂いている。これでやれているなら、しばらくこれでもいいと言われるかもしれないが、単純な人数ではなく、波及効果を及ぼしてくれる施設を目指していこうという空気がより広く共有できればいい。</li> <li>・自然博物館が拠点となって、色々な母体の博物館と協力して貴重な資料を安全に未来へ継承していくことは、県民にも理解してもらえると考える。</li> </ul>